

研究内容

プライマリケア医学、家庭医療学を中心とした臨床研究を行っている。

この研究分野は、1970年頃より北米や欧州のいわゆる General Practitioner (GP) の活動を礎としている。その後各国の大学医学部や医科大学に家庭医療やGP の講座が設立され発展してきた。特徴として、医療の生物学的側面に加えて、地域立脚型の保健医療を扱うため、人文科学、社会科学の広い分野に関わっていることが挙げられる。すなわち疾病中心型の臨床研究のトピックにとらわれず、医療コミュニケーション、医療の質評価、行動科学、質的研究等が含まれている。

大学院教育における具体的な目標は、プライマリケア医学・家庭医療学の理論的背景とともに疫学・臨床疫学・生物統計学、そして臨床研究の方法論を身につけた、地域医療現場での clinician-researcher の育成である。すなわち日常診療での疑問をリサーチクエストとして昇華し、臨床疫学をベースとして研究デザインを構築し、さらにチームとして研究を実施し、解析、発表する能力を養い、地域医療プライマリケアの現場からエビデンスを発信できる人材の養成を進める。

研究課題

- ① Practice-based research network での多施設共同・在宅高齢者コホート研究
- ② 患者の複雑性に関する研究
- ③ プライマリケア現場における飲酒習慣に関する研究
など

教育目標

プライマリケア医学・家庭医療学の理論的背景を身につけるとともに、clinician-researcher となるために必要な疫学・臨床疫学・生物統計学を理解し、臨床研究へ応用できる能力を養う。さらに、臨床研究のプロセス、すなわち日常診療や日常医療業務上での疑問をリサーチクエストに昇華させ、プロトコルの作成から実施、解析、発表に至る過程を経験し、大学院卒業後は clinician や医療人として診療や医療業務にたずさわりながらその中で臨床研究を自ら実施し、さらに臨床研究について後進の指導をしていけるよう知識と技術を身につける。

到達目標

- ① 臨床上の疑問を良質なりサーチクエストに変換できる。
- ② リサーチクエストから疫学・臨床疫学の理論に基づいた研究プロトコルを作成できる。
- ③ 研究に必要な対象者数推定ができる。
- ④ 計画したプロトコルを元に研究を実施できる。
- ⑤ 研究結果を妥当な統計学的手法で解析できる。
- ⑥ 汎用統計処理ソフトウェアを使用できる。
- ⑦ 該当する倫理指針に基づいた研究を実施できる。

STAFF

教授 松島 雅人

問合せ先

臨床疫学研究部
研究室

03-3433-1111 (内線2399)